

長原小学校で河川環境学習を開催しました。

長原小学校4年生の児童を対象に、「川の水をきれいにするための取り組み」について学習した後、身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成24年9月27日（木）8：40～10：20

場 所：長原小学校

参加者：長原小学校 4年生 6名

徳島県 河川振興課 3名

内 容：1 川の水をきれいにするための取り組み

2 水の汚れの原因（水質実験：透視度、CODパケットテスト）

【活動状況】

○「川の水をきれいにするための取り組み」

川の役割や川と人の関わりなど、川に関する基本的なことを学びました。また、川をきれいにするための取り組みやその大切さを学びました。

○「水の汚れの原因」水質実験（CODパケットテスト、透視度測定）

身近な河川の今切川（今切川河口堰の上流）と水道水の透視度を測定しました。測定結果は、今切川の水は、水道水に比べて低い値となり、今切川の水は透視度が低いことがわかりました。

次に、COD（化学的酸素要求量）をパケットテストにより測定しました。今切川①（今切川河口堰の上流）と今切川②（今切川河口堰の下流）と水道水のCODを測定した結果、水道水に比べ、今切川①及び②のほうがCODが高いことがわかりました。今切川①と②では、下流である今切川②のほうがCODが高いことがわかりました。また、川の汚れの原因となる生活排水として、身近にある食品（牛乳、ジュース、しょうゆ、スープ、米のとぎ汁、焼き肉のたれの全6種類）のCODを測定しました。測定した結果、500mlの水に2～3滴程度混ぜたものでも0～50mg/lとなり、食品によっては高い値を示すものもありました。このことから、残した食べ物を安易に流しや川に捨てることによって川がどれほど汚れてしまうかを知り、水質浄化のために自分達ができることを学びました。

